

学区探訪

郷土探訪 一・十八
五十一号

岡崎市史に慶長以来の各町村の併合ならび
分裂の表がのっています。

寛永十七	元禄十四	明治五	明治十一	明治二十二	昭和四
上大門村	同	大同 大門新田村	大門村	大樹寺村	岩津村
下大門村	同	中大門村 下大門村			
上ノ里村	同	上里村 東上里村	上里村		
百々村	同	同	同		
藪田村	同	同	同		
井ノ口村	同	同	同		
大樹寺村	同	大樹寺村 門前村	同 鴨田村		

学区探訪

郷土探訪 一・十九
五十二号

新編岡崎市史の史料近世上七に領主変遷一
覧というのがあります。

町村名	寛文四年 (一六六四)	寛政元年 (一七八九)	天保五年 (一八三四)	明治元年 (一八六八)
藪田村	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
大樹寺村	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
上大門村	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
上大門村	八剣社領	八剣社領	八剣社領	八剣社領
上大門村	大円寺領	大円寺領	大円寺領	大円寺領
大門新田村	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
中大門村	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
下大門村	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
上之里村	岡崎藩・御料所	岡崎藩	岡崎藩	岡崎藩
東上里村	伊賀八幡社領	伊賀八幡社領	伊賀八幡社領	伊賀八幡社領

学区探訪

一・二十一
郷土探訪
五十三号

大門学区の戸数・人口の変化についてまとめました。

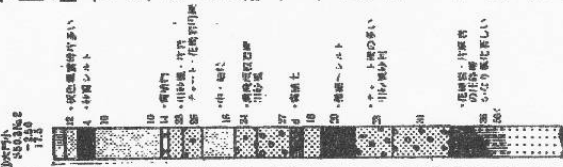
	明治7		昭和8		昭和55		昭和63	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
大門	116	498	94	506	512	1801	656	2589
上里	32	32	35	331			598	
大樹寺	21	153	16	230	385	1211	462	2097
藪田	17	92	17	102	258	1351	360	1541
計	186	806	162	942	1486	5213	2076	7447

学区探訪

一・二十三
郷土探訪
五十四号

大門の地形

大門小学校の理科室には、学校が開校する時に地質調査をしたボーリング資料があります。その資料を分析した地質柱状図が新編岡崎市史の自然十七にのっています。



岡崎平野沖積地帯の地下には埋没段丘面が存在しており、その段丘面を侵食して深い埋没谷が存在しているといわれています。

この矢作川埋没谷は、豊田市水源町から上郷町の段丘に沿って大門小学校付近を遇りほぼ真南に流下して羽角山の麓をけずり、八ツ面山の南を峡谷をつくって三河湾へ向っている、と新編岡崎市史には書かれています。

新編岡崎市史によると、この谷底には東方から真福寺川、青木川、伊賀川が合流しまた、六名台地と明大寺丘陵の間を流下している乙川や南方から小河川の流れを集めて合流する広田川などが合流しているそうです。

学区探訪

一・二十四
郷土探訪の
五十五号

（ 矢作川自然堤防 ）

昔の矢作川は、現在とかなり流路が異なり、流路そのものも度々位置を変えたようです。広い氾濫原を幾筋にも分かれて網状流となって流下していました。度々変化する流路となかなか水のひかない半沼沢性の原野が広がり、矢作川沖積地での人間生活の居住条件はけっしてよいものではありませんでした。しかし弥生時代になるとこの半沼沢性湿地にも人が住み始め、自然堤防

上に集落ができ、後背湿地に水田が開かれました。この遺跡については次号に書きます。

当時の矢作川は、何本もの分流が網状に流下し、洪水の度ごとに泥土を広い原野に供給していました。矢作川上流は花崗岩地帯であるため風化まさ土が洪水の度に流され、川底がだんだん高くなり小高い自然堤防ができました。この矢作川も田中吉政の築堤により水路が定められると、多量の土砂が堤防内の河床に堆積するようになり、河床が高くなって天井川となりました。

学区探訪

一・二十五
郷土探訪の
五十六号

（ 遺跡 ）

矢作川の流路は不安定で、矢作川そのものも現在のように一本の流れでなく、数本に分かれて流れていました。こうしたなかでこの学区の沖積平野ができあがりました。新編岡崎市史を見ますと、旧石器時代の遺跡として矢作川左岸河岸段丘上の遺跡、縄文時代の遺跡として矢作川河床遺跡がのっています。今の細川や岩津には旧石器時代や縄文時代の遺跡があるのです。

大門学区に人が住み始めたのは弥生時代です。上里二丁目には有名な味噌粕岩遺跡がありました。今は国道二百四十八号線により景観がすっかり変わってしまい地形をつかむことも困難ですが、昔、ここは矢作川が作った沖積平野にできた自然堤防だったのです。そして、ここにこの地方における稲作文化の最初の遺跡が生まれたのです。味噌粕岩と伝えられた岩も現在では遺跡とともに消滅してしまいましたが、領家変成岩で乱流状態の低湿地にポツンととり残された自然堤防であつたのです。

学区探訪

一・二十六

郷土資料の
五十七号

味噌粕岩遺跡

学区探訪の二十九号にもこの味噌粕岩遺跡のことを書いておきましたので、そちらの方も参考にして下さい。

この遺跡は昭和三十四年と四十一年の二度にわたって発掘調査が行われました。国道二百四十八号線の建設に伴い、遺跡全体が埋没することになったため、緊急に行われた調査でした。自然堤防上に立地したこの遺跡は、岡崎北部最初の農耕文化跡である。

りますが、完全な調査が行われる前に消えてしまったのが残念です。出土した遺物は弥生時代中期のもので、

土器・・・流水神平式土器・瓜郷式土器・古井式土器・長床式土器・寄道式土器など
壺形土器・甕形土器・鉢形土器があります
石器・・・石包丁・砥石・磨製石斧
獣骨・・・モウコノウマの遺体で、家畜の馬骨です。下顎骨・脊椎骨・四肢骨・肩甲骨が見つかりました。この馬歯から生後十〜十四歳ぐらいと考えられます。これらの遺物は市の郷土館にあります。

学区探訪

一・二十七

郷土資料の
五十八号

大門遺跡

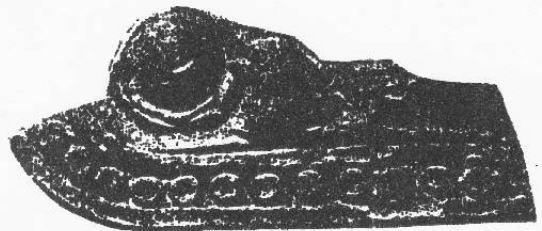
大門遺跡については、学区探訪二十八号にも書かれています。

昭和四十八年三月の市政だよりに大門遺跡が紹介されていますので、それを引用します。筆者は岡崎市文化財保護審議会委員の杉浦正明氏です。

今一つ特徴のある遺跡として大門町八剣（やつるぎ）宮裏の大門遺跡を紹介したい。ここは弥生時代から江戸時代に至るまでの

いろいろな遺物が出土したが、とくに瓦は多種類出土し、中でも鬼瓦が出土していることが珍しい。平安末期から鎌倉初期の瓦であるが、寺院であるかどうかはわからない。ここもやはり渡河地点であったと考えられる。

鬼瓦。岡崎市内に於ては唯一つの発見で貴重な存在である。



学区探訪

一・二十八

郷土探訪

五十九号

古代の学区

古代、中央においては崇仏派と排仏派とで日本の国に仏教を取り入れるべきかどうかの対立がありました。崇仏派の中心が蘇我氏、排仏派の中心が物部氏でした。対立の結果、崇仏派に負けた物部氏は中央から地方へ分散をしました。物部守屋には五人の息子がいました。そのなかの次男物部真福は三河国のこの岩津地区（仁木郷）へ転出しました。真福寺はこの物部真福が建て

た寺だといわれています。また、大門の矢作川対岸にある北野麿寺が平安時代に火事
で焼けた後、岩津の地に移転されたのが真福寺だとの伝承もあります。この地域の物部氏と密接な関わりをもつ寺社をあげてみますと、北野麿寺・真福寺・滝山寺・調幡神社があります。これらのことから考えますと、大門学区は物部氏との関わりで古代より開けていたと考えられます。古代律令制の土地区画制度として条理制があります。この条理制の遺構が北野・大門地区にも存在する、という説もあります。

学区探訪

一・三十

郷土探訪

六十号

昔の街道と渡し

昔、乱流状態にあった矢作川の渡河地点として、西岸には北野・矢作・渡があり、東岸には岩津・大門・明大寺・六名・上和田がありました。「太平記」という本には上の瀬・下の瀬という記述があり、上の瀬は大門―北野という交通路をさし、下の瀬は大和（佐々木）・渡―明大寺の交通路をさしているようです。つまり、北野・大門明大寺という地点は、川を渡る地点であり

交通の拠点として重要な地点であったと考えられます。

上の渡とされる大門は矢作川が大きく湾曲している沖積低地です。そして、対岸には古代寺院である北野麿寺の跡があります。大門―北野という「上の渡」は奈良・平安時代の街道の渡河地点です。そして、渡―明大寺という「下の渡」は鎌倉街道の渡河地点でした。大門は北野薬師寺が栄えた奈良・平安時代には交通の要地であったのでしよう。味噌柏岩の長者伝説も、この渡船で長者になった人かもしれません。